

平成29年度

# 港湾空港技術講演会

日時

平成29年12月21日（木）  
10:20～16:20（受付 10:00～）

会場

発明会館  
東京都千代田区虎ノ門2-9-14

## ■ 講演会概要 ■

本講演は、国土交通省国土技術政策総合研究所及び国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所港湾空港技術研究所で実施している調査、研究、技術開発の成果を公表し、その普及に努めることを目的に開催しております。

当日は、『うみそら研のA I 研究のこれから』と題し、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 大和裕幸理事長の特別講演と、両研究所から最近の研究成果を発表します。

年末で多忙中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜りますようお願い申し上げます。

申込方法

必要事項を明記の上、FAX・e-mailにて下記宛先までお申し込み下さい。  
（様式自由）

入場

無 料  
定員：250名

## ■ 必要事項 ■

件名『平成29年度 港湾空港技術講演会 参加申込み』

- ①氏名
- ②所属団体名
- ③〒番号・住所
- ④電話番号

（FAXでお申し込みの方は、FAX番号もお知らせ下さい）

## ■ 申込締切 ■ 12月15日（金）

申し込み多数の場合は、定員になり次第締切とさせていただきます。



土木学会CPDプログラム  
認定番号 JSCE17-1247  
(4.7 単位)

## ■ 会場マップ ■

東京メトロ

- ・銀座線「虎ノ門」駅3番出口／徒歩5分
- ・日比谷線「神谷町」駅4番出口／徒歩6分
- ・千代田線「霞が関」駅A13出口／徒歩10分

## ■ お申込み・お問合せ先 ■

国土技術政策総合研究所  
管理調整部 企画調整課  
Tel：046-844-5019  
Fax：046-842-9265

海上・港湾・航空技術研究所  
港湾空港技術研究所  
管理調整・防災部 企画調整・防災課  
Tel：046-844-5040  
Fax：046-844-5072  
e-mail：kikaku@ipc.pari.go.jp



# プログラム

- 10:00 開場
- 10:20 開会挨拶  
◎栗山善昭 港湾空港技術研究所長
- 10:30 近年の高潮災害と設計を超える潮位  
◎河合弘泰 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域長
- 11:10 栈橋上部工点検用ROVの開発  
◎田中敏成 港湾空港技術研究所 新技術研究開発領域 ロボティクス研究グループ 主任研究官
- 11:50 港湾構造物の予防保全に向けた取組み  
◎加藤絵万 港湾空港技術研究所 構造研究領域 構造研究グループ長
- 12:30 休憩（1時間）
- 13:30 特別講演 うみそら研のAI研究のこれから  
◎大和裕幸 海上・港湾・航空技術研究所 理事長
- 14:30 休憩（20分）
- 14:50 高潮からの安全確保のための、観測・予測・防護に関する研究  
◎鮫島和範 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 沿岸防災研究室長
- 15:30 人為災害による国際海上コンテナ輸送への影響  
◎赤倉康寛 国土技術政策総合研究所 港湾研究部 港湾システム研究室長
- 16:10 閉会挨拶  
◎三宅光一 国土技術政策総合研究所 副所長

## 講演者紹介/講演内容の概要

特別  
講演

海上・港湾・航空技術研究所

やまと ひろゆき

理事長 大和 裕幸

『うみそら研のAI研究のこれから』



大和 裕幸理事長のプロフィール

1982年、東京大学大学院工学系研究科船舶工学専門課程修了、工学博士。同年より科学技術庁航空宇宙技術研究所飛行実験部で短距離離着陸実験機「飛鳥」の操縦システム開発と飛行試験に従事。NASA エイムズ研究センター 動力式高揚力機研究課客員研究員、1988年から東京大学工学部船舶工学科助教授、教授をへて、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、研究科長、2013年から東京大学理事・副学長。2016年から現職。

### 河合弘泰『近年の高潮災害と設計を超える潮位』

近年の台風・ハリケーンによる高潮・波浪災害とその教訓、伊勢湾台風級の台風による高潮や既往最高潮位に基づく現行の設計潮位、その再現期間の確率台風モデルによる推定の試み、設計を超える潮位をもたらす高潮の推定における技術的な課題等について紹介する。

### 田中敏成『栈橋上部工点検用ROVの開発』

栈橋上部工下面の目視点検を代替する目的で開発中のROV型点検装置に関し、構造物下における測位や衝突回避支援、点検位置の管理機能など、当該装置が具備する特徴的な操作・運用支援機能について、現場実証実験の結果を交えて紹介する。

### 加藤絵万『港湾構造物の予防保全に向けた取組み』

栈橋上部工部材の維持管理優先度や防波堤ケーソンの補修設計等、港湾コンクリート構造物の維持管理の効率化に向けた検討について紹介するとともに、予防保全的な維持管理を実現するための点検診断・補修技術等の将来展望について述べる。

### 鮫島和範『高潮からの安全性確保のため、観測・予測・防護に関する研究』

地球温暖化の進展により、海水面の上昇、台風の大型化が懸念され、高潮による災害リスクの増大も想定される。今後想定される高潮による災害リスクに対する安全性向上に資する、観測・予測・防護に関する研究を紹介する。

### 赤倉康寛『人為災害における国際海上コンテナ輸送への影響』

高度に発展したグローバル・サプライチェーンは、災害に対する脆弱性を併せ持つ。それゆえ、海運・港湾は世界経済のアキレス腱となる恐れがある。今回は、人為災害である①米国西岸港湾の労使交渉による混乱及び②韓進海運破綻を例として、災害リスクを分析・評価し、その対策を論ずる。